

～ 巫女の手引き ～

- 朝来られた時に神殿の前で一礼してからご奉仕に入り、お帰りになる時も一礼しましょう。
- 参拝者の方々には挨拶を忘れずに笑顔でハキハキ応対しましょう。
- どのような仕事にもチャレンジする気持ちを忘れずに、責任を持って行動しましょう。
- わからないことが多いと思います。自分勝手な判断で行動せずに、必ず相談しましょう。
- 「奉仕の気持ち」を忘れずに行動しましょう。

《注意事項》

- ・ 神職、氏子さんには挨拶を忘れずに。
朝は「おはようございます」、帰るときは「お疲れ様でした、お先に失礼します」など。
- ・ 事務所、神楽殿に入るときは、「失礼します」「失礼しました」の一言を忘れずに。
- ・ 髪の毛は『黒いゴム』で低い位置に一つにまとめましょう。
前髪やサイドの髪が長い子は、『黒いピン』で留めてきてください。
- ・ 立っている時や歩いている時は『又手(さしゅ)』を心掛けてください。
『又手(さしゅ)』とは、右手の上に左手を重ね置き、体の前で両手を組むことです。
- ・ なるべく下を向かない。
- ・ 参拝者がいない時は、お守りを並べたり、周囲を綺麗にしたりすること。
- ・ 私語はなるべくつつしむこと。



【授与所での応対】

授与所とは、お札やお守りをお分けするところです。お札やお守りは種類もたくさんあり、金額(初穂料)もそれぞれです。計算間違いのないように、ゆっくりと丁寧に応対してください。

『初穂料は〇〇円お納めください』と、語尾をのばさずに参拝者に伝わるようハッキリと言いましょう。

〔基本の言葉使い〕

「おめでとうございます」



- ・「こちらのお札とお守りですね」
- ・「〇〇体でございますね」
- ・「〇〇円お納めください」



「〇〇円お預かりいたします」



「〇〇円のお返しでございます」



- ・「ようこそお参りくださいました」
- ・「またお参りください」
- ・「良いお年をお過ごしください」

参拝者を待たせてしまう場合は、

「少々おまちくださいませ」

参拝者に感謝を伝える場合は、

「大変おそれいます」

「ありがとうございます」

参拝者に謝る場合は、

「本当に申し訳ございません」

などの一言も忘れずに。

お札やお守りの数え方は「1体(たい)、2体(たい)」と数えます。